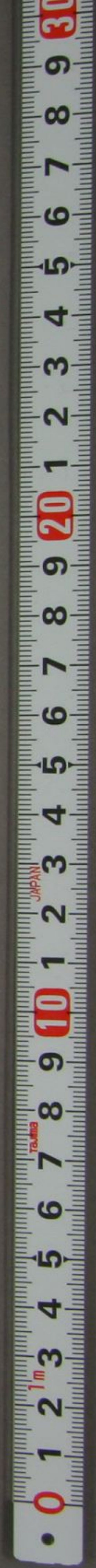


414
A 356



經綸治賦之遺法民より急存る
 たり治民之術祖庸均ふたりより
 先存るたり治得る今日税法改正
 去る事ハ最之急務なる所以自ら事而
 建議仕候道、改正之條件方今專ら
 會議中、有之逐次伺出候積然、案
 税法改正之儀施行致し、先以地

大正十一年四月
 大隈 信彦 寄贈



方官之職事舉らば上令を宣
布する能はざるの勢の有之尤之近
法憲議を以地方之職制にお定候儀
付缺漏之を以て候得共存
候得一時洗除難致故以未
掣之制法お存候處有之候間
其の訂正上地方官ヲ以て專ら
心加のしめ候様有之候儀
所見

之件別紙一條陳仕候条
法憲議法許可法定候下
奉行之度此段お同申候也

大藏大輔井上段番

正院
法中

進而第ニ條地方諸費之儀送前以來
永々以テ常備金ニ換の儀曾申上候

七者之退、舊藩に仕來等取調後、
各地區に方法と問、正租の中より、
米、引分々候分等者之一時、仕譯難
取調次第も有、考以別紙と通、
建言仕候也

第一條地方官在職ノ期々々

スヘキ事

凡在職父ニカラサレハ能者其成功ヲ
奏スルノ暇マナク不能者其過失ノ顯ハ
ルニ至ラス且ツ近時税法其他地方、
政務改正ノ際、當り尚更上下公私情
實ヲ固ラシメナル可カラサル故に、今左ノ
制ヲ定ムヘシ

一府縣在職知事令ハ奉職以來四年
間ハ必ス其職ヲ轉セシム可ラス故ニ其
年限中職事ニ堪ヘサル歟罪状其
職ニ任シ難キアルニ非サレハ苟モ放職
又ハ轉任スル事ヲ得ス

但シ初任ハ必ス權官トスヘシ在職ノ間
治術ノ進歩ニ從ヒ正官ニ進ムヘシ
在職中事故アリテ辭免ヲ申請スル

時ハ其治效ニ從ヒ優待ノ特
恩アルヘシ

一知事令轉任又ハ解職スル時ハ後
任者成ルヘクハ其府縣ノ参考權考
事或ハ七等出仕ノ中ヲ以テ其職ヲ繼ギシ
ムヘシ初任必ラス權官ニ止ル

第二條經租緯租ノ區別ヲ明ラ
カニスヘキ事

地方準備金定額アリ故に一事一業ヲ興スニ申請シ許可ヲ得ルニ非カハ施行スル能ハス時トシテ許可ヲ得サレバ往々黙止シテ其才力ヲ伸ズル能ハサルノ歎ヲ起サシム故に經租乃官稅緯租乃地方別稅ノ區別ヲ明ラカシメ經租ハ之ヲ大藏省ニ輸納セシメ全國ノ經費ニ供スル為トシ緯租ハ地方ニ屬スル

管内一般ノ諸費ニ供スル者トシ知事令ノ隨意ニ増減興廢セシメ之ヲ收令以テ諸費ニ充ルヲ得ヤシメハ地方官ヲシテ充分事功ヲ舉行セシムヘシ以上ノ二件ヲ舉ケテ施シ朝廷常ニ地方官ト氣脈ヲ通シ其大綱ヲ舉ケ大抵ノ事件ハ地方官ハ奏申ニ准許シ其意ヲ行ハセ其功ヲ責メ以テ

以テ治民ノ政ヲ舉ケシムルヲ要ス是其
任スル処重ケル其責ノ亦必輕カラサルノ
理ニシテ地方官負タレ若翰躬盡瘁
セカレテ得ナルナリ夫如此ニシテ猶且ツ
治民ノ功績ヲカシムルハ速ニ之ヲ貶黜
スルモ甘ニシテ其罪ヲ受ク人ニ

一、治民ノ功績ヲカシムルハ速ニ之ヲ貶黜スルモ甘ニシテ其罪ヲ受ク人ニ

